

別記様式第3号

議事録

委員会名	葛飾区消防団運営委員会
日 時	令和6年7月30日(火) 14時57分から16時07分まで
場 所	葛飾区役所 5階庁議室(東京都葛飾区立石五丁目13番1号)
諮問事項	変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか
出席者	委員長 青木 克徳(葛飾区長) 委員(敬称略) 堀越 克夫(本田防火防災協会長)、矢部 文雄(金町防災協会長) 平田 充孝(都議会議員)、北口 剛士(都議会議員) 和泉 尚美(都議会議員)、 梅澤 豊和(区議会議員)、江口 寿美(区議会議員) 大高 拓(区議会議員)、木村 秀子(区議会議員) 古沢 良司(本田消防団長)、臼倉 龍太郎(金町消防団長) 大橋 一朗(本田消防署長)、村上 博人(金町消防署長)
欠席者	米川 大二郎(都議会議員)
傍聴者	1名
配布資料	1 第2回葛飾区消防団運営委員会次第 2 葛飾区消防団運営委員会答申書(草案) 3 消防団員資格取得等の一覧表(資料1) 4 葛飾区消防団運営委員会アンケート結果(資料2) 5 葛飾区消防団運営委員会答申概要版(案)
	議事録
葛飾区事務局	ただいまから葛飾区消防団運営委員会を開催いたします。 はじめに、本委員会の委員長であります青木克徳葛飾区長からご挨拶申し上げます。
青木委員長	皆さんこんにちは。 消防団運営委員会に参加いただきましてありがとうございます。 さて、今年は1月1日に能登半島の地震がございました。また東北地方で大きな水害が起こっております。大変厳しい自然環境の中で、いろんな活動を消防団の皆さんもしていただいているわけであります。 もちろん行政として能登半島の地震の際にも、いろんな形で支援活動をさせていただいております。清掃職員を派遣したり、保健師を派遣したり、それから建築担当の職員を派遣したり、いろいろしております。 これからも、ゴミの片付けについても、共同でやっていきたいと思いま

	<p>す。</p> <p>そのように、日本全体で助け合うことはもちろんですけれども、現場では消防団の皆さんのが一生懸命活動されているわけでありまして、その消防団の皆さんのが活動しやすさをどう作っていくかというのは大変重要なことだというふうに思っています。</p> <p>そして、その消防団員がなかなか集まりづらいとか、いろんな課題もあるわけもありまして、今回の諮問の中でも変化している社会情勢に適応して、消防団の組織力を向上させるというようなことになっておりますけれども、今後もできる限り、消防団活動がしやすいような状況、デジタルトランスフォーメーションについてもありますけれども、いろいろな対策について、皆さんからご意見をいただきながら、まとめてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>今日は第2回の運営委員会になりますので、皆様からもご意見をいただき、まとめてまいります。</p> <p>よろしくお願ひ申し上げまして、挨拶といたします。</p>
行政担当 部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、4月1日付けで委員の異動がございましたので、ご紹介の方をさせていただきます。</p> <p>令和6年4月1日付けで、金町消防署長に任命されました、村上博人さんでございます。</p>
金町 消防署長	村上と申します。宜しくお願ひいたします。
行政担当 部長	続きまして、委員以外の方を紹介させていただきます。本田消防署、後藤淳警防課長でございます。
本田消防署 警防課長	後藤でございます。宜しくお願ひいたします。
行政担当 部長	<p>以上でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>続きまして、米川大二郎委員につきましては、欠席のご連絡をいただいております。</p> <p>それではこれより、議事の方に入りますが、議事の進行を委員長に務めていただきます。委員長、宜しくお願ひいたします。</p>
青木委員長	<p>令和5年8月16日付けで「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」そうした諮問が当委員会にあったわけでございます。</p> <p>このことにつきまして、皆様にご議論いただきまして、令和7年3月31日までの期間で答申することになっております。</p> <p>既に本年2月に第1回の委員会を開催いたしまして、検討方針案につ</p>

	<p>いてご審議をいただいております。</p> <p>2回目の今回は、前回の審議内容に基づいて作成をいたしました方針案をご審議いただきたいと思います。</p> <p>方針案につきまして、担当事務局の本田消防署の、後藤警防課長から、説明してください。</p>
本田消防署 警防課長	<p>改めまして本田消防署警防課長、後藤でございます。</p> <p>まず書類の確認ですけれども、皆様のお手元の左側、葛飾区消防団運営委員会、答申書草案があります。</p> <p>それから、答申書の概要をまとめました A3 判カラー、葛飾区消防団運営委員会答申概要版（案）があります。</p> <p>それから、さらに前回第 1 回の委員会でご意見がありました、左上に資料 1 と記載しました、消防団員、資格取得等の一覧表。さらに資料 2 と記載しましたが、先般葛飾区全団員を対象に実施しました葛飾区消防団運営委員会アンケート結果、合計 4 種類の書類を準備いたしました。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>本日はこちらの答申書草案をまず用いまして、まず前段部分についてご説明した後、ご審議いただきます草案部分の具体的な内容につきましては、A3 版カラーの概要版を用いまして、資料 1、資料 2 と合わせてご覧いただきながらご説明させていただきます。</p> <p>それではまず、答申書草案、そちらを 1 枚おめくりください。</p> <p>目次、ならびに諮問概要について記載してございます。諮問概要につきましては、第 1 回委員会で示されたとおりですので、ここでは割愛させていただきます。さらに 1 枚おめくりいただきまして、2 ページ目、第 2 章、葛飾区消防団の現況からご説明いたします。</p> <p>本田、金町各消防団の本年 6 月 1 日現在の現況について、こちらの別表に示すとおりになります。</p> <p>各団ともに、消防団の配置の基準に示す人員数を満たしてはございません。</p> <p>また、女性団員の割合、こちらも増えておりまして、いずれも約 2 割の団員が女性という状況にございます。</p> <p>さらに平均年齢、こちらも 50 歳代となっておりまして、年々上昇傾向にあるということが、下の別表に平均年齢の推移というグラフをご覧になられてもわかるかと思います。</p> <p>続きまして 3 ページ目、第 3 章、諮問に対する課題と検討の方向性、こちらですが、消防団が組織を維持し活動を継続していくためには、年代、性別、体力、勤務形態など異なる人々が消防団に魅力を感じ、より参加しやすい組織としていく必要がございます。</p>

これを踏まえまして、葛飾区の消防団員に対してアンケート調査を実施したところでございます。

その実施結果も盛り込みながら、以下の対応策についてまとめまして本委員会の答申にさせていただきたいと考えております。

それでは、以下の検討事項と検討の方向性、それに対する具体的な対応策について消防団運営委員会答申概要版にまとめております。A3版概要版をご覧ください。

先ほど、委員長からもありましたとおり、諮問事項に対しまして、2つの課題を抽出しております。

それでは、表の一番左の青色と黄色の部分、こちらに検討事項と、その左側に検討の方向性について、前回の第一回、委員会において御審議いただいたところでございます。

今回は、各検討事項と検討の方向性に対する、さらに右側に書いてあります、対応策の部分について御審議いただきたいと考えております

まず、課題1、地域防災の要である消防団として変化及び成長していくことが重要である、についてでございます。

検討事項としまして、青色の部分の2項目が挙げられております。

1つ目の、入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、に対しまして、検討の方向性の1つ目、団活動によりやりがいを持てる方策の対応策としまして、団員自身がスキルアップできる訓練の継続、防火防災訓練や救命講習指導による地域貢献としております。

これは、資料2のアンケート実施結果、こちらを1枚おめくりいただきますと、アンケートの問1、消防団に入団し良かったと感じることはありますか、という質問、問2、消防団活動を通じてやりがいや充実感はありますか、という質問をしております。

問1においては、9割以上の方が非常にある、あるいは、あると回答しており、問2でも、8割以上の方が非常にある、ある、と回答しております。

さらに、もう1枚おめくりいただきまして、問2で、やりがいや充実感が非常にある、ある、と回答した団員に、理由について聞いた結果、各種災害対応訓練ができた、消防操法ができた、研修教育、資格取得、防火防災訓練、救命講習で指導ができた、という回答が多く寄せられました。

自身のスキルアップや、地域、あるいは仲間とのリレーションシップの構築、身につけたスキルを発揮して、消防活動や各種訓練、救命講習などを行い、地域防災力の向上に貢献したいと感じている、ということを反映しております。

また、概要版に戻りまして、対応策としまして、費用弁償の増額等による活動環境の改善とも記載しておりますけれども、こちらは、前回の委員会で活動中に補給する飲料水や食料をはじめとした諸経費の多くを各団員が負担しているというご意見をいただきましたので、費用弁償の増額等という内容で記載しております。

これによって、各団員の負担軽減と活動環境の改善が図られますとともに、これから入団する方への魅力の増幅とアピールにつながるものと考えております。

続きまして、検討の方向性、2番目になります。

各種教養講座の拡充及び多様な主体との共同による地域密着型講習の推進とありますけれども、前段の各種教養講座等の拡充につきましては、資料1の一覧表にあるとおり、様々な資格を団員に取得してもらっているところであります。

また、アンケートの実施結果、問4をご覧いただきますと、現在行われている資格取得講座で拡充してもらいたい資格はありますか、との質問をしております。

こちらに対しまして、二級小型船舶操縦士養成講習や、上級救命講習可搬消防ポンプ等整備資格者特例講習、防災士などの拡充について要望があります。

さらに、現在行われている資格講習以外で消防団活動において必要だと思う資格はありますか、との質問に、消防設備士や危険物取扱者に防災介助士といった意見が挙げられました。

また、同じく問5をご覧いただきますと、現在行われている講習で拡充してもらいたい資格はありますか、との質問に、手話技能講習や消防団員教養講座、英会話技能講習などの拡充について要望が多く、こちらについても、現在行われているもの以外で消防団活動に必要だと思う講習はありますか、との質問に、運動能力アップ関係や災害時の避難行動関係、気象に関する基礎知識関係といった意見が挙げられております。

以上のような資格講座や講習の拡充を図るということが必要であるということで、具体的な名称をここには記載しております。

さらに、団員の高齢化が進んでいる現状を鑑みますと、健康増進に関するセミナーを充実させ、健康管理に関する知識の向上を図っていくことも重要であると考えております。

また、概要版の検討の方向性、多様な主体との協働による地域密着型講習の推進につきましては、消防団の協力事業者や、管内の各企業と協力体制を確立しまして、防災設備や介護、自動車関係といったその企業の特性を生かした知識や技術に関する講習を開催することで、地域との

連携を図りながら、新たなスキルを習得できるような環境を整えることができ、また、企業にとっても地域貢献につながり、双方にメリットがあるものと考えております。

次に、検討事項の二つ目になります。

最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策に対しまして、検討の方向性が三つ挙げられております。

一つ目、デジタルトランスフォーメーションの推進及び通信手段の強化につきましては、アンケート実施結果問6になります。

災害時の団員間の連絡手段として、スマートフォンによるSNS（LINE）や携帯電話でのやり取りが大半を占めている結果になっております。

これに対しまして、団員への災害発生時の連絡あるいは出動要請というのは、緊急連絡網による電話連絡を基本としております。

災害発生時、団本部から各団へ電話連絡をした後、電話のほかにLINE等を補完的に使用して団員に連絡しているという現状があります。

SNS等の活用につきましては、災害現場の住所や個々の名称など、個人情報流出の恐れがありまして、情報セキュリティに配慮していく必要があると考えております。

そのため、既存のSNS等を利用するのではなく、団員間の情報共有を目的とした専用のアプリなどのシステムがあれば有用であると考えております。

災害発生の連絡だけでなく、双方向のシステムとすることで、その災害で出動が可能かどうか回答できる機能などをつければ、団本部も把握することができ、また費用弁償の集計事務にもつながることができると考えております。

さらに、災害現場周辺の地図や水利の表示機能など、使い勝手の良いシステムが必要と考えております。

さらに、前回ご意見のあった分団本部での低軌道衛星通信、具体的にはスターリンクのようなインターネット環境の整備によって、大規模災害時の通信増設に備えるとともに、また団員間の通信手段として現行のMCA無線機の配置数を拡大するということで、通信手段の増加及び安定化を図ることも重要であると考えております。

続きまして、検討の方向性の2番目ですが、タブレット端末を活用した事務の効率化につきましては、現在配置されておりますタブレット端末の機能を充実させ現行の機能のほかに団員の育成支援に活用する、ということで団員個々の訓練実施状況、あるいは進捗を管理することで、

どの団員がどの程度のレベルに達しているか把握できる機能を追加するということで、そのレベルに合った指導につなげていきたいと考えております。

また、団本部から各種届出、報告書類を各分団や団員に対して発出していますが、これらをデータ化してタブレット端末から行えるようにすれば、負担軽減につながるものと考えております。

検討の方向性3番目、各種資機材の更新に合わせた身体的な負担の軽減と活動環境の整備、こちらにつきましては、大規模災害発生時の長時間活動、あるいは女性団員の増加などを鑑みまして、装備品や資機材の軽量化、あるいは機能性の向上により負担軽減を図るとともに、女性団員からのニーズを踏まえた分団本部等の施設とすることで、活動しやすい環境の整備が必要だと考えております。

特に消防の資機材は重量のあるものが多いことから、可搬ポンプ運搬車に補助車輪を付けるなどの既存の資機材の改良や、ここに記載してございますような新たな資機材を整備していくことで、負担軽減を図っていきたいと考えております。

また、各分団本部も順次新しくなってきているところではございますが、女性用の更衣室、あるいは女性用トイレの整備をさらに進めていくことが必要と考えております。

以上が課題1に対する具体的な対応策の内容となります。

次に、課題2、活動力を地域で発揮していくことで地域住民の負託に応え続けることが重要、についてでございます。

黄色の部分の検討事項、消防力維持のための計画的な人材育成方策について、に対して、検討の方向性1番、経験の浅い消防団員への教育訓練体制と訓練指導体制の強化については、火災件数も減少しているということから、経験の浅い団員が多く存在しております。

これを補うために、団員個々の実力に応じた訓練の実践が必要と考えております。

アンケート結果問3にもありましたけれども、やりがいあるいは充実感を高めるために実践的な訓練を充実させる必要があります。

団員個々の能力や経験値に応じた訓練指導を行っていくことが重要と考えております。

また、経験を積んでいるベテランの団員には、長年の消防団活動により培った知識や技術を指導者として活かしてもらうために、訓練指導者を育成する研修等の新設や訓練指導マニュアルといったものを作成しまして、統一的な指導が行える環境を整えることも必要と考えております。

検討の方向性2番目、地域の特性を踏まえた実動訓練、こちらにつきましては、災害を想定した火災出場時の流れをイメージした訓練とか、大規模災害を想定した訓練も必要であるということから、様々なシチュエーションを想定した救助訓練や避難誘導訓練などを行うことによって、団員のスキルあるいはモチベーションを同時に向上させていくということが重要であると考えております。

検討事項の最後、地域に尽力している消防団の認知度向上と社会情勢に応じた入団促進に対し、検討の方向性1番、将来を見据えた防災指導につきましては、アンケート結果問7、こちらに書かれております、消防団を身近に感じ消防団のことを知ってもらうためにどのような広報や活動が必要だと思いますか、というような問い合わせに対しまして、総合防災教育への参加あるいは防災訓練などの指導、こちらが消防団活動の認知度を上げる機会であるというふうに団員の方が感じているところでありますと、地元の将来を担う世代に対しまして、地域に密着した消防団の重要性、こちらを繰り返しアピールしていくことが必要であると考えております。

最後に検討の方向性2番目、積極的な地域交流と地域コミュニティの調和につきましては、こちらもアンケート結果問8になりますが、消防団員に入団してもらうためにどのような募集活動が効率的だと思いますか、というような問い合わせでありますけれども、効率的な団員募集活動としては、イベント等でのアピールが効果的であると、多くの団員が実感しております。

地域で行われるイベントあるいは学校、PTAが行う行事等に積極的に関与しまして、消防団が身近な存在であるということを浸透させていくことが重要であると思います。

また、現役消防団員の知人あるいは友人への声掛けも、入団促進に効果的であるという意見も多く挙げられております。

同じ地域コミュニティに属する人々のつながりによって、消防団が支えられているという面が大いにございます。

しかしながら、この地域コミュニティと消防団の管轄区域というのが必ずしも一致していないということもありますと、知人、友人とともに入団することができないといった場合や、長年にわたり尽力してきた消防団員が管轄区域外へ転居したことにより、退団しなければならないというケースも発生しております。

したがいまして、現状の管轄区域内に居住、勤務、または通学していなければならぬという消防団の入団要件の見直しを図っていく必要があるというように考えております。

	<p>以上が、今回の答申草案の内容についてであります。 ご審議のほど、よろしくお願ひいたします。</p>
青木委員長	<p>はい、ありがとうございました。 ただいま説明がありました答申案につきまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願ひします。</p>
和泉委員	<p>答申案の草案、5ページ2のところですけれども、タブレット端末を活用した事務の効率化のところで、団員個々の技能や訓練実績などをシステム管理できるようなツールの導入によって、団員の育成支援の活用や届け出をデータ化するのだと、団員の負担低減を図るということが書いてあるのですけれども、今現在の団員個々の技能や訓練実績っていうのはどういう風にして管理をされているのでしょうか。</p>
本田消防署 警防課長	<p>各訓練を実施したときに訓練実施結果という書類を出してくれます。 訓練を実施していただくとこちらの費用弁償の対象になりますので、そういったもので管理していくというのが現状です。 そういったところに基づいて各団員の大体この人は何回訓練に参加しているのか、というところを把握していくというのが現状です。</p>
和泉委員	<p>それをあくまでデータ化してすぐに見やすいようにするとか、それから推移が見えるようなものにするとかということで負担低減を図るということなのでしょうか。 私が心配したのは、それが逆に団員の評価、努力をどの程度評価するのかとかそういう評価につながってしまっては逆に団員の定着に結びつかないのではないだろうかということを心配したものですから、ただ少なくとも今やっていることをデータ化していくということだ というふうに理解しましたので、わかりました。ありがとうございました。 それともう一つお願いしてもいいですか。 この草案の2ページ、葛飾区内において消防団の現状についてということを一覧表にしていただきました。 それで事前の説明をしていただいたときに、できれば団員の平均年齢を男女別に推移にして教えていただければというふうに申し上げたのをおそらくここに落とし込んでいただいたのかなというふうに思うのですが、もう一つそのときにお願いすればよかったなと思っているのが、充足率の推移です。 23区の充足率とそれから本田金町の充足率も合わせて推移をグラフでお示しいただけると、どのように変化してきているのか、23区の平均よりもちょっと葛飾低いわけですね。 そのような葛飾区の消防団の特徴がどのようなところから来ているのか、それに合わせた対策をどのように取っていく必要があるのかという</p>

	<p>ことを検討していく必要があるかなというふうに今日改めて思っているところです。</p> <p>できればそれも草案の中にグラフとして入れていただけると大変ありがたいです。</p>
本田消防署 警防課長	わかりました。
青木委員長	よろしいでしょうか。他にもいらっしゃいますか。
北口委員	<p>全般的に思うところではあるのですけれども、昨今火災への出動というよりは消防団に求められてきているところが、どちらかというとやはり大災害時にどう地域で活動していただくか、ということなのかなというふうにもちょっと感じている部分がありまして、そういう意味では新たな資格とかそういう中に防災士とか拡充の一つの方向性として、例えば気象予報士とかですね、そういう災害に資するような知識とか技能とか、その知恵みたいな部分を学んでいくような取り組みが、今後対応策の中で拡充されるようになっていくのが素晴らしいのかなというようと考えております。</p> <p>ですので、そういう方向性で火災に捉われず、もう少し広く消防団の活動の内容を充実していく取り組みが必要なのかなという感じております。</p> <p>その中で、例えば課題2の上から4つ目、災害を想定した訓練活動というところで大規模災害の中に震災水災ということも入っておりますけれども、今東京都としては大きな災害ということで地震と水害とあと噴火それからインフラの凍結、それから感染症、その5つを取り組んで今大きな災害ということで考えているところがありますが、そういうことも少し頭に置きながら、どういった訓練をしていったらいいのかを確認していっていいのかなと思いました。</p> <p>これはできるかできないかは別として、課題も大きいとは思っているのですけれども、大会や操法大会が消防団の1つの目標としてあるわけですけれども、例えば震災を想定した避難誘導とか水害を想定した何か訓練とかも、何か大会みたいなものがあって、そこに向けて消防団の皆さんのが技能を磨く取り組みがあってもいいのかなというようには感じたところでございます。</p> <p>なかなか実現にはいろいろとハードルがあると分かっておりますが、そんなこともちょっと感じたので意見として言いました。</p>
青木委員長	ありがとうございました。
大高委員	北口委員がおっしゃるとおり火災から起こる出動は消防団として当然

	<p>の仕事であって、今その中でやはり大規模災害ということですね。そういう中で今北口委員がおっしゃられたのはやはりいろいろな知識をしっかりと調整していただいて、消防団員の能力をアップしていくというのは一つだと思います。</p> <p>私が考えているのは基本的にはそれもすごく大事ですし、一方で今度は地域の方々地域に住んでいる町会や住民の方々のといった知識や技術の底上げというものをしていかなければいけないというのは毎回お話しさせていただいております。</p> <p>それは、やはり消防団がといった地域の方々を救命講習などの指導ができるというところまでしっかりと引っ張り上げていって、そこからここで地域の方々にご指導いただいて地域の底上げをしていくというようなことが必要ではないかということを感じておりますので、それを一つの目標として進めていただきたいというように思っております。</p> <p>そしてすいません、この課題の1番ですけれども、費用弁償増額等、これはありがとうございます。非常に恐らくどの団員もなかなか伝えにくいですね、今このような形でご理解いただいて非常に感謝いたします。</p> <p>それとですね課題2の3番の資機材です。</p> <p>その中で屋外活動用のファン付きベストですね。</p> <p>これ早急に必要となってきているものであります。</p> <p>今現実、明日にでも昼夜とは問わずイベントがございまして、その中で消防団の募集活動に励んでおりますので、その辺りでぜひ早く対応していただきたいなということですが、この今課題1なのですけれども、これが今諮問事項として挙げられて具体的に予算化されるのというのはいつ頃になりますか。</p>
本田消防署 警防課長	<p>こちらは答申として都にお返しして、都知事の方でこれが揉まれてということになりますので、具体的にいつというのは難しいところはあるのですが、今回の今年度の答申になりますので、来年の少なくとも3月にお返ししてその後のことになるのではないかと思われます。</p>
大高委員	<p>ということは1年以上かかるということであって、緊急に消防団の活用に必要なものもある中で、といったような結構このたくさんのことが出ているのですけれども、緊急性のあるものに関してはどういった予算措置ができるといった運用ができるかということも含めて葛飾区もボート貸与していただいているということもありますので、葛飾区と消防庁の環境でいろいろと協議していただいて、今本当に必要なリスクに關しても資機材に関しては早急に対応していただきたいと思いますが、その辺りにお願いいたします。</p>

本田消防署 警防課長	葛飾区からの補助でありますとか先ほどおっしゃられたボートを提供いたいているところでございますので、追加ができるのであればそのようなところで対応していただきたいと思っております。
大高委員	<p>区長もいらっしゃるので、ぜひ検討していただきたいと思います。</p> <p>それと消防団の資格等の一覧なのですけれども今後の資格取得のあり方としてももう一度精査が必要なところがあると感じています。</p> <p>これはインセンティブとしては 非常にいいかもしないですけれども、二級小型船舶操縦士の確保、これなのですけれども実際私も水害があつて洪水があつた被災地にお手伝いに行って、だいたいテレビで見る時も船外機を使って活動している方々が、警察も消防も含めてほとんどいないと思います。</p> <p>要は船外機が必要な活動はどこなのかというと河川で何も浮遊物がないところでということで訓練されていると思うのですけれども、船外機がはたして本当に今必要なのかどうなのか、それで予算の関係でどういった取り扱いなどを含めて、基本的には葛飾はだいたい内水氾濫が想定されるというような地域でもありますので、ゴムボートを少し増やしてオールを増やして、だいたい膝から腰ぐらいまでの水害を想定ということで示されておりますので、その中ではゴムボートとオールとライフジャケットがあればクリアできることって多分にあるのかなということを感じます。</p> <p>そこで、はたして船外機使つたところで様々な浮遊物が絡まって東日本大震災でもかなり苦労されたという話は警察でも消防でも聞きますので、そのあたり資格の本当に必要かということを再検討が必要なのかなという時期に来ているのかなと思いますがいかがでしょうか。</p>
本田消防署 警防課長	団活動を具体的に考慮して必要な資格の拡充もしくは見直しを図つていくということが必要になっているということは承知しております。
大高委員	<p>非常にインセンティブとしてはよくて、私も消防団で二級船舶を取つたのではないのですが、当時四級船舶を取らせていただいて、本当に必要かなと思って取つたのですが、実際に使う事象を想定する中で、はたしてこれが本当にるべきものなのか、必要なのかということを最近よく考えるようになってきまして、そのあたりはぜひご検討をいただきたいなというところでございます。</p> <p>他のところも必要なものはどんどん入れていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。</p>
江口委員	私はより参加しやすい組織ということで、中で一つ目の課題の女性団員が活躍しやすい環境の整備のところですけれども、先ほどお話が事例としてありました、更衣室を確保していくやトイレのことなどがありま

	<p>したけれども、これについて実効性を持ってやっていただければいけないことだとすごく思っています、この答申を受けて東京都からの返事を待ってから進めていくのではやはり遅いのではないかと。</p> <p>その辺のところはどのようにお考えなのか、あとは現時点でどのように進めていらっしゃるのか教えていただければと思います。</p>
本田消防署 警防課長	<p>先ほどもご説明の中で話したとおり分団施設ですね、新たなものがでてきておりまして、新たな分団本部には1階と2階に分けてトイレがついているところもあります、現在としましてはその分団さんで、1階は女性が使いましょう、2階は男性が使いましょう、というふうに工夫をしながら使うことになっているというところが現状であります。</p> <p>また更衣室につきましても部屋等区切られたスペースとしてはないという現状なので、パーテーションも組み合わせて女性が使えるスペースを作ったりというところが現状としてありますので、そういった既存の施設を今使いましてパーテーションよりももう少し折り畳みの効いて区切りができるようなものを、そんなイメージですとかそこでしっかりと男性と女性が重ならないように区分けしていくことができるのかなというふうには感じておりますので、そういった工夫をしながらまだまとめられていないというふうに思います。</p>
江口委員	<p>新しく改築するとか何か新しい場所に移るとかということでなければなかなかそれは難しいと私は承知しておりますので、ぜひそこはしっかりと計画の中に入れていただいて進めていただきたいなと思います。</p> <p>もう一つ伺いたいのは入団条件に国籍とかそういうのって関係ありますか。</p>
本田消防署 警防課長	<p>今のところ明記されている条件、条例の方には書いてないというのが現状であります。</p> <p>ただ各分団、消防団によって全然フリーで入団されているところも全國的にあったりとか、あるいは人命に関わるようなところにはちょっとご遠慮いただいてお手伝いのようなところで活動してもらえる分には入団は関係ないというような状況になっています。</p>
江口委員	<p>外国籍の方なども地域にかなりいらっしゃっているような状況もあつたりして、もし、そのような日本のこうしたシステムの中で何かお役に立ちたいとかいう方もいらっしゃるかもしれません。</p> <p>そういったときは生活環境も違うし文化も何もかもが違う中で馴染んでいただくにはなかなかご苦労もあるかと思いますけれども、そうした方々の力も充足率を高めていくことだと、入団促進するという目的のためにされますので、そうした工夫もぜひ考えていただければなというふうに思います。</p>

青木委員長	はい、ありがとうございました。
木村委員	<p>この案を見ますと組織の向上と開発の中にも消防団としてのスキルアップやレベルアップについて書かれているわけですけれども、私は今現状消防団員がやはり足りないじゃないですか、その中で消防機能をどう維持していくのかということがすごく大きな課題だと思っております。</p> <p>消防団員の確保としてこの課題の一番下に入団促進についていろいろ方向性などに対応策が重ねているのですけれども、若い方の入団ということで、確かに18歳以上であれば学生の皆さんも入団できますよね。</p> <p>やはりそういう学生の皆さんにも大いに消防団員の加入促進が必要ではないかなと思っています。</p> <p>葛飾区では調べたところちょっとヒットしなかったのですけれども、他の自治体では大学生が消防団へ加入すると学生消防団活動認証証明書を公布しています。</p> <p>またこの証明書は学生の皆さんにとっても就職活動などにすごく役立っているようです。</p> <p>そういう意味でもこの区内でも、若い人たちの働きかけの一つとして何かできないかなと考えているのですけれどもいかがでしょうか。</p>
本田消防署 警防課長	<p>要件の中で居住か勤務かもしくは通学していて18歳以上というのがございますして、委員がおっしゃられたとおり、特別区学生消防団活動認証制度というものがございます。</p> <p>そちらについては、入っていただきて活動していただいた学生さんに消防総監名で認証をさせていただきます。</p> <p>このように、就職活動に役立つという制度もすでにありますので、こういったこともPRしながら、区内の学生の方に広く入団促進していただければなというふうに考えております。</p>
梅沢委員	<p>2点あるのですけれども、まず課題1のDXの推進及び通信手段の強化のところで、専用アプリの導入を提言していただけるようなお話をいただきましたけれども、これをしていただくのは大変いいと思いますし、ぜひ使い勝手のいいようなことにしていただきたい。</p> <p>アプリを作ったりとかシステムを作るというふうになると、おそらく予算とかがものすごく大きくなってしまいがちになってしまふので、本当にそれを使ったほうがいいのか、それとも通信手段の経緯だけで言つてきますと、おそらく各災害があるときは署のほうから分団長とか幹部のほうにまずは連絡が入つて、それから団員に落としていくというような形にどこもなっているわけだと思うのですけれども、そこに至るところに関して私は既存のSNSを使っていくのがものすごく今皆さん同じように情報を共有できているというところはたぶんそこらへんが既存の</p>

	<p>SNS も使いながらどこまでがこちらで使っていいのか、それともどこの部分は自分たちでしっかりとそのアプリとかシステムを使っていったほうがいいのか。</p> <p>先ほどお話しあった個人情報のお話とかもあると思うので、どこどこのうちが火事になりましたというのがそこら中に流れたらそれぞれ問題だと思いますので、そこをしっかりと見極めていただいて、本当にせっかく作っていただくというようなお話になっていくとしたら、やはり予算も含めて、もちろん必要なものには使っていっていただくべきものだと思うのですけれども、ぜひ消防団の方たちが使いやすいようなシステムやアプリを構築していただけたらなと思います。</p> <p>あと課題2のところで入団要件の見直しということが出ていますけれども、この入団要件の見直しの中で新しく消防団の方が入っていくというような中で、入りたいって言ってから入団するまでの時間というのが結構長かつたりするようなお話を聞くことがありますて、多分3ヶ月とかかかつたりするかと思うのですね。</p> <p>健康診断を受けてください、結果を出してください、それからその結果を通知します、みたいな話でそこまでの間で結構時間がどうしても長くなっているようなところがあるかと思うので、そこをなるべく入りたいというようなご意向がある方、そこから入団までの期間というのが短いほうがその方の気持ちもそのまま、どうしても長くなっちゃうと気持ちがまた変わっていっちゃうという方も少しでもおられるかなと思いますので、その入団するまでの期間をなるべく短くしていただきたい。</p> <p>やはり消防団は地域の活動なので、そうしたらここの地域の方にこの分団の活動になりますとか、ここの地域の中で働いている方など、この入団要件の中であるかと思うのですけれども、この地域の中でも例えばこの地域外で本当に通りを挟んだ方とかでも、例えばもともとこの地域にいたけど家は隣町で買っちゃったりして、でもこの方はここの地域よりも、もともとの地域の方のつながりが強いとか、それでも結局それで要件が満たされないで入れないとか、また逆にもともと活動された方が他の地域に行っちゃって、それで退団せざるを得えなかつたみたいな事例があるというようなお話があるので、そのところの見直しも、しっかりと進めていただければと思いますのでよろしくお願いします。</p>
平田委員	<p>今の話と関連して、この答申書に書いていただいている、入団要件ですね、その地域において消防団活動が可能か否かという観点で、入団要件の見直しを図り、というふうに書いていただいているのですけれども、これ本当に非常に重要な指摘で、今おっしゃったとおりで、これ、実は今、東京消防庁の方にもいろいろ要望をしておりまして、また、次</p>

	回委員会あたりの時には、いろんなご報告もできればと思いますので、是非、この答申書に書いてある内容、非常に重要だと思いますので、よろしくお願ひします。
和泉委員	<p>もう一つ聞きたいのですけど、もし分かれば結構です。</p> <p>自治町会とか、それからマンションの管理組合とか、そういう小さなコミュニティごとに行われている防災訓練というのは、今現在、年間どのぐらいあるものでしょうか。</p> <p>それと、その時にどんな訓練を行っているかも、もし今お答えできるようでしたら、教えていただけたらと思います。</p>
本田消防署 警防課長	年間の件数につきましては、ちょっと今は。
和泉委員	でも、行われているところはあるのですか。
本田消防署 警防課長	<p>行われているところにつきましては、通報訓練から始まりまして、消火訓練だと、避難訓練だと、個別の訓練で今回は通報だけ、今回は消火訓練、避難訓練というふうにやっていらっしゃるところもあります。</p> <p>全部まとめて総合訓練という形でやっていらっしゃるところもございます。</p>
和泉委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>区のご協力もいただきながら、なるべくそういう小さいコミュニティでの防災訓練というのを行っていくって、とても大事だなって今思っています。</p> <p>やっぱり何か災害が起った時、あるいは災害に備えるため、それは消防団の皆さんにお願いする、実際に災害が起った時には消防団の皆さんにお願いするところがとても大きいと思うのですけれども、やっぱりどう備えるのかというのは、住民のそばに住んでいる住民の皆さんと一緒に、日頃から消防団の皆さんの方をお借りして、どう備えていくのかというのを住民の皆さんと一緒に考えていく。</p> <p>そのことで消防団の活動を地域の皆さんに知っていただいて、その上で自分たちのこととして消防団活動に積極的に関わっていただくというところに活路が開けていくということにもなるのではないかなどというふうに思っていますので、ここはぜひ東京都の方でもそういった支援ができるように私も頑張りたいと思いますが、葛飾区の方でもなるべく小さいコミュニティで防災訓練ができるような、そして資格を持っていて講習を受けたりしている方のスキルがそういう中でも活かされるような、そういう取り組みがもっと活発になると、消防団の団員獲得にもなかなかいいものになっていくのではないかなどというふうに思います。</p>

	<p>それと資機材に関しては、秋口に東京消防庁が予算要求するはずですので、都議会に送っていただいている議員としても、来年3月の答申を待って、その次の年ということではなくて、この次の次の年だというタイムスケジュール感ではなくて、予算要求をしていくと、なるべく早く予算化されるように予算要求をしていくということで、と一緒に力を合わせていければなというふうに思っています。</p>
青木委員長	<p>各町会239ありますけれども、それぞれに防災基準設定を作っておりますとして、それぞれの町会ごとに訓練やるケースもあれば、いくつかの町会が固まって訓練をやるケース、それについて訓練を出してもらって、消防団の皆さんと協力しながら進めていますので、それをできれば頻繁にやってもらうように。</p> <p>ただちょっとコロナで減りましたけれど、その他にも避難所訓練とか、いろんな訓練がありますけれども、そういうのも積極的にやるよう消防団と連携してやっていきたいと思います。</p>
和泉委員	マンションはどうですか。
本田消防署 警防課長	マンションもやってもらって、管理組合ごとにやってもらっていますが、東京消防庁としてもマンションの住民の方に対する防災訓練に、今年度、また改めて力を入れていきたいと思います。
青木委員長	<p>マンションも基本的には町会に、管理組合が町会として登録しているケースが多い。</p> <p>もちろん小さいマンションの場合は、そのエリアの町会に入ってもらって、それでまた訓練と一緒にやるとか、いろんな形でやっていますので、マンションについても積極的にやっていかなきやいけないなと思います。</p>
本田 消防団長 古沢委員	<p>消防団からのお願いなのですが、和泉先生にですね、これ予算がかかることなのでしょうけれど、大規模災害の時に、スマートフォンということなんですが、全く災害時に携帯電話がつながらないという、そういう状態が発生して、前回の東北の地震などでもつながらなかつたのですね。</p> <p>消防団はMCA無線というのを使っています。</p> <p>そのMCA無線も携帯型なですから、アンテナが短いです。</p> <p>そのアンテナだと、いくつかの無線局から受けているのですが、大災害時の時にあちらこちらに移動して、ここは電波が届く、こっちは届かない、そういうのがあって、まず使えなかつたことがあります。</p> <p>ですから今、格納庫が新たにできているところがありますし、従来から使っている格納庫もあるのですけれど、アンテナをできたら、私自身、短いアンテナを購入したのですよ。5,000円足らずで売ってい</p>

	<p>るのですよね。</p> <p>それにコードを掴めて、壁を貫通させて、自分でやっているのですけれど、それだと自宅にいても、格納庫の中にいても、電波が届きます。</p> <p>一つアンテナを格納庫の上に置いとくだけで、かなり通信が良いです。</p> <p>タブレットというのもありますけれど、タブレットもやっぱり通信で届かない可能性もあるのでね。</p> <p>予算は、そんなに他のものから比べたらあまりかからないと思うのですけれど。アンテナだけですよね。</p> <p>アンテナを無線機につなげればいいだけなので、これでしたらお願いたいなというところです。</p>
和泉委員	<p>通信の現場としては、MCA 無線機が一番安定しているという事ですね。</p>
本田 消防団長 古沢委員	<p>そうですね。今それがメインで使っています。でもそれでも全然つながらないです。</p>
和泉委員	<p>そのアンテナがあれば、非常に安定するということですか。</p>
本田 消防団長 古沢委員	<p>そうですね。</p> <p>消防署でも、本田消防署の場合ですけれど、隣にビルが建ってしまったので。</p> <p>訓練をやるのですけれど、その MCA 無線機と各分団をつないでいるのですけれど、途切れるのが結構あるのですね。</p> <p>だからアンテナ、その短いアンテナなのですけれど、移動しているわけなのですよ。</p> <p>そうじゃないとつながらないので、大災害時アンテナを持って移動ができないので、ちょっと高いところにできたら、アンテナをお願いしたいなと思うのですね。</p>
本田 消防署長 大橋委員	<p>消防団の情報通信については、この MCA 無線機の話もあるのですけど、様々なトータルな情報通信手段で、大規模地震の時にも確保しないといけないというところもありますので、アンテナの話も結構なのですけど、トータルでやらないといけない部分もあると思います。</p> <p>例えば衛星電話の配置なんていうところは、他所の方でいろいろと進めていく。</p> <p>そういうのもあると思います。</p>
和泉委員	<p>MCA 無線機に限定した話ではなくて、より安定して、災害時でも安定して通信がつながる、そういう手段ってことですよね。</p>

本田 消防署長 大橋委員	トータルでいろんなことを進めていく。そういうことが重要であると思います。
本田消防署 警防課長	先ほどの和泉先生から、防災訓練の件数とあって、昨年ですけれども、区の方に届出されたものだけで240件です。
和泉委員	年間ということですか。
本田消防署 警防課長	はい、年間です。
和泉委員	ありがとうございます。
本田 消防署長 大橋委員	<p>防災訓練は、町会自治会、マンションなどだけじゃなくて、小さなコミュニティに対しても、いろいろお手伝いしています。</p> <p>最近の実例ですと、区役所からもお話を伺ったのですが、エチオピアのコミュニティがあるのですね。</p> <p>エチオピアの方は緊急通報の仕方が分からぬし、消火器の使い方も自分の国とは違うということがあって、ぜひ消防訓練をしてほしいということがありました。</p> <p>それも今年の5月か6月かですが、雨が降りましたので、全てを想定どおりにはできなかつたのですが、そういった要望にも対応しております。</p> <p>何をお伝えしたいかというと、町会自治会、マンションだけに囚われず、小さなコミュニティに対しても訓練は行われております。</p>
和泉委員	例えば、うちの近所、10件集まって、6件集まって、とかいう場合でも対応していただけるという。
本田 消防団長 古沢委員	他にも、学校単位とかね。
本田 消防署長 大橋委員	東京消防庁の施策で「街かど防災訓練」というのを行っていますのでできれば簡単な訓練でも、10分でも20分でもいいとか、そういう方策を持っていきますので、ぜひ参加していただきたいと思います。
本田 消防団長 古沢委員	<p>もう一つお願いなのですけれども、消防団、災害、消火活動がメインはもちろんなのですけれども、今、心肺蘇生とかね、そういう応急救護の方にも力を入れているのですけれども、消防操法大会は基本ですから、これは行っていくのは当然なのですけれども、もう25年以上前だと思うのですけれども、心肺蘇生の大会というのは1回だけなのですがあります。</p> <p>私、当時、選手になりました、負傷者を発見して、四肢変形なしから</p>

	<p>口腔内確認、そういうのから全部やって、担架搬送までやりました。</p> <p>その当時は、本田に関しては1分団から16分団あって、1分団から8分団まではポンプ操法大会で、8分団から16分団は心肺蘇生並びに担架搬送を行う。</p> <p>そういうのをもっと行ってもらえたなら、助かる。</p> <p>いろんな面で勉強になりますからね。</p>
平田委員	<p>それは以前やられていて、それを要は復活というか。</p>
本田 消防団長 古沢委員	<p>そうですね、1回くらいしかやってないですよ。</p> <p>私、長い間やってますけれど、応急救護訓練は1回しかやってない。</p> <p>それとこの間コロナの時に、ポンプ操法大会もちょっとできなかつたのですけれど、出動訓練というのがありますね。</p> <p>署から消防団に命令が下る、無線で入ります。そうすると、自宅から署に行く、各分団本部に来る。それでポンプ積載車に乗って、現場まで行きます。現場でチェーンソーを使ってパイプを切ったり、木材を切ったり。中の人を助けて、また助け出した人を搬送する。そういう大会もやりました。</p> <p>ちょっと変わった訓練もやってみたいというのが、事実です。</p> <p>お願いできるかと思います。</p>
本田 消防署署長 大橋委員	<p>アンケートの4枚目なのですが、一番やりがいがあるのが各種災害対応訓練ができたというものがあります。</p> <p>これは私の個人的な話なのですが、上から5番目が災害現場で活動に従事できた。これは5番目になります。</p> <p>本来これは一番上に行かないといけないとだめじゃないかと思っています。</p> <p>訓練も操法も資格取得も、全て何のためにやっているかというと、災害現場で活躍するためにやっているものです。</p> <p>同じページの一番下から3番目、活動が少ないので充実化を図る、活動というのは、いろいろな活動だと思うのですが、災害現場での活動が少ないとかな。</p> <p>特別区の場合は人口密度が高いというのもありますし、消防署も密に設置されていますので、普段の火災ですと、消防団の方が現場に着く前に、だいたい消防車が6台、7台で活動してしまって、消防団の方が来るころには、だいたい火事が消えてしまっていることが多いですね。</p> <p>ですから、なかなか消火活動に従事できなくて、こういう結果にもなってしまうのかなということも考えられます。</p> <p>ただ、大きな火事においては積極的に消防団の方々も消火の筒先を持</p>

	<p>っていただいて、消火活動に従事していただきたいなと思っています。それをどんどんやっていただくことで、今5番目に入っている災害現場で従事できたというのが、もうちょっと上がっていくのかなと。これを上げていけば、消防署員もそうなのですが、訓練が一番やりがいを感じるのではなくて、消防署員も現場で活動して、現場で住民の方々に感謝していただくのが、一番のモチベーションが上がってやりがいが上がることですので、ぜひ消防団員の方々もそういうふうになっていただけるように、災害現場での活躍できる訓練をしていただくとともに、実際に現場での活躍の場を、消防署としても配慮していきたいなと思っています。</p>
青木委員長	<p>他にございますか。 消防署を含めて対応できるようにしていただきたいと考えております。それでは、ほかに質問はありますか。それでは、以上で終わります。ありがとうございました。</p>
行政担当 部長	<p>ありがとうございました。 また、委員の皆様におかれましては、貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。 本日の審議内容をもとに、次回の委員会で答申をまとめてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。 なお、次回の委員会につきましては、令和7年の2月を予定しております。 日時会場につきましては、後日申し上げますので、よろしくお願ひいたします。 以上をもちまして、令和5年度第2回の葛飾区消防団運営委員会を終了させていただきます。 本日はお忙しいところ、ご出席をいただきまして、ありがとうございました。</p>